

近代ヨーロッパの形成と発展

I ヨーロッパ世界の拡大

1 香辛料とキリスト教

- 1) ア (コショウ・ナツメグなど) : 豊かさの象徴
① 中東のムスリム (イスラーム教徒) の商人を介して高額で取引
→ 産地 (インド・東南アジア) との 直接取引 をしたい

2 新航路の開拓 : ポルトガル と スペイン がいち早くすすめる

- 1) ポルトガル : イ が アフリカ南端 の ウ を 經由して
エ に 到達 (1498年)

2) スペイン

- ① オ の 航海
・ 地球球体説 を根拠に 西回り航路 を主張 → カ 年 カリブ海 の島 (サンサルバドル) に到達
・ アメリカ大陸 を インド と誤解し先住民を インディオ と名付ける

※ アメリゴ=ヴェスプッチ が アジア とは別の大陸であることを報告

- ② キ の 世界周航 : 西回り で 東南アジア 目指す

- ・ スペイン → 大西洋南下 → アメリカ南端 → ク 横断 → ケ 諸島 に到達
- ・ フィリピン で マゼラン は死亡するが、部下 による 航海 で 喜望峯 を回り 帰還 → 地球球体説 実証

3) アメリカ と アフリカ

① アメリカ

- ・ コ ・ サ : 高度な文明・豊富な金銀
→ コンキスタドル (征服者) による 破壊 と 略奪

- ・ 先住民支配 キリスト教 (カトリック) への 強制改宗

シ の 鉱山 の 開発 ・ ス などの 栽培 で 酷使 + 疫病 → 人口激減

② アフリカ

- ・ アフリカ の人を 奴隷 にして、激減したアメリカ先住民 に替わる 労働力 として アメリカ大陸 へ
- ・ 奴隷貿易 19世紀までに 1000万人以上 → アフリカ の 発展 を 阻害、アメリカ の 黒人差別 の問題

4) 大西洋 を かこむ結びつき

- ① セ 貿易 ※ 国際的分業体制 の始まり

- ・ アメリカ ・ アフリカ : 食料 ・ 原料 ・ 労働力 を提供する 地域 に

- ・ ヨーロッパ内部

ソ : 経済の中心 に

イタリア諸都市 : 衰退

東ヨーロッパ : 西ヨーロッパ 向けの 穀物生産地域 に

- ② 新しい作物 : タ ・ チ → ヨーロッパ の 人口増 を支える

5) 銀 が 結ぶ世界

① ツ

- ・ アメリカ大陸 から 銀 の 大量流入 + ヨーロッパ の 人口増加 = 急激な物価高騰

② アジア への 銀 の 流入

- ・ 銀 で アジア 商品 (香辛料・綿織物・茶など) を 購入
※ 銀 や 交易品 で 世界が結びつき を強める

3 主権国家の形成 ※主権国家：明確な国境で囲まれた領域と、独立した主権を持つ近代国家

1) 新しい国際秩序

① ア 戦争 (1494～1559)

- ・ドイツとフランスの君主を中心としたヨーロッパの覇権をかけた戦い
→決定的な勝敗つかず＝ヨーロッパで絶対的な大国生まれず

② イ の形成

- ・各国が国王を中心に国家の統合をすすめる
- ・各国は明確な領土を持ち、王がその中での最高の権力（主権）を主張
- ・主権を持つ各国の ウ が重要視され始める
※一国が強くなりすぎないようにする

2) スペインの繁栄

① アメリカ大陸の植民地化：ブラジルを除く中南米を支配、産出される 銀 を独占

② エ (位1556～98)：全盛期

- ・ レバントの海戦 (1571)：オスマン帝国を破る
- ・ ポルトガル併合 (1580) →「太陽の沈まぬ国」

③ 衰退

- ・ 1588年、オ がイギリスに敗北→制海権失う
- ・ 商工業が盛んな カ (オランダ) が独立

3) オランダの独立

※古くから毛織物業など商工業盛ん・カルヴァン派多い

※16世紀半ばからスペイン王の支配下に入る

① フェリペ2世の政策：重税・キ 強制

② 独立戦争 (1568～1609)

- ・ ク の独立を宣言 (1581)
- ・ 事実上独立 (1609) →国際承認はウエストファリア条約 (1648)

③ 繁栄

- ・ スペインやポルトガルに代わって世界商業・金融の覇権を握る
- ・ 首都の ケ は経済の中心として繁栄

4) イギリスとフランスの国内統合の進展

①イギリス ※議会の伝統

- ・ コ 成立 (ヘンリ 8 世) : 国王を教会の長とする
=カトリックからの離脱→国王を中心とする国家統合進められる
- ・ サ (位1558~1603)
国教会を確立・国内産業 (毛織物業) 育成・積極的な海外進出
※1588 スペインの オ 破る
- ・ シ 革命 (ピューリタン革命) (1642~49)
〔 ステュアート朝 (1603~49、1660~1714) 成立、議会を無視した圧政
内乱勃発 (1642) →議会派が1649年に国王 ス を処刑、共和政 を樹立
セ の独裁政治→死後政治が混乱して、王政復古 〕
- ・ ソ 革命 (1688年)
王政復古後のイギリスでカトリック復活や王権強化を図る国王と議会对立
→1688年、議会在王の娘メアリと夫のオランダ総督ウィレムを新しい国王に迎える
王(メアリ 2 世・ウィリアム 3 世)は タ 発布
内容：法律の制定や廃止・課税・徴兵については議会の承認が必要 など
→議会主権が明確になる = チ 政 確立
※その後、18世紀前半に ツ 制 成立 (内閣は議会に対して責任を負う)

②フランス

- ・ テ 戦争 (1562~98) : カトリックとユグノー (カルヴァン派) の内乱
ブルボン朝をひらいた アンリ 4 世 が ト 発布
※ユグノーの権利を保障→カトリックとユグノーが和解
- ・ ナ (位1643~1715) : 全盛期
多くの侵略戦争 (スペイン継承戦争など) : 領土の拡大はかる
ニ 宮殿 建設 : 華やかな宮廷生活を内外に誇示

5) ドイツの分裂 ※神聖ローマ帝国は国内の諸侯が自立して、まとまっていなかった。

① ス 戦争 (1618~48)

- ・ アウクスブルクの和議 (1555年) 以後も新旧両教徒対立
- ・ 宗教内乱が国際戦争に発展
- ・ ネ 条約 (1648年) → 領邦 (諸侯の国家) が 事実上独立
ドイツの分裂状態が長く続く

※領邦の中ではオーストリアとプロイセンが最有力に

② オーストリア : バルカン半島へ南下、オスマン帝国と争い領土拡張→多民族国家に

③ プロイセン : ノ (位1740~86)

- ・ 行政・軍備の改革
- ・ オーストリアのマリア=テレジア と抗争→領土の拡大に成功

6) 東ヨーロッパ諸国とロシア

①東ヨーロッパ諸国の衰退←オスマン帝国の進出・ヨーロッパ経済の再編

- ・ ハ : 16世紀、オスマン帝国が征服
17世紀末、オーストリア領に
- ・ ヒ : 18世紀末、ロシア・オーストリア・プロイセンに分割される
(ポーランド分割)

②ロシア

- ・ フ (位1682~1725) : 西欧化推進
北方戦争→スウェーデンを破りバルト海に進出、新都 ペテルブルク 建設
- ・ へ (位1762~1796) : ヨーロッパの列強に加わる大国に

7) 17~18世紀の西ヨーロッパ文化

①現代への影響

- ・ 科学 : ホ (万有引力、古典力学) など
- ・ 政治思想 : マ : 社会契約説
ミ : 人民主権
- ・ 経済 : ム (古典派経済学の祖、重商主義批判)

②芸術 : 宮廷生活と深い結びつき

- ・ バロック 式 (17世紀、豪壮華麗) ※ヴェルサイユ宮殿
- ・ ロココ 式 (18世紀、繊細優美)

4 大西洋世界の展開とアジアへの進出

1) 近代主権国家と重商主義

- ①国内産業を育成し国家の統合強める
- ②17世紀の危機：気候不順、戦争多発、経済不況

→危機への対処=重商主義：国家が積極的に経済に介入・貿易黒字の拡大目指す

- ③ ア：イギリス・オランダ・フランスがそれぞれ設立
→海外進出が本格化し、激しい競争へ

2) 非ヨーロッパ世界の植民地化

- ①海外進出の目的：貿易 → イ 獲得へ変化

- ②16世紀：アメリカ大陸の植民地化

17世紀：アジア諸地域にヨーロッパ勢力の拠点築かれる

3) オランダの海外進出

- ①アジア方面：1602、東インド会社設立

- ・ジャワ島のウを拠点にアジア貿易進める
- ・エ 事件 (1623)
→イギリスをモルッカ諸島 (香辛料の産地) から締め出す
- ・鎖国中の日本とも通商関係維持・一時台湾を占領
- ・アジアへの中継点としてケープ植民地 (南アフリカ) 建設

- ②アメリカ大陸：ニューネーデルラント植民地 建設 ※現ニューヨーク

- ③覇権の喪失

- ・イギリスのクロムウェルが オ 発布 (オランダを締め出し)
→ イギリス=オランダ戦争 →敗北
- ・17世紀後半、香辛料の価格暴落

4) イギリス・フランス間の植民地抗争

- ①抗争の始まり ※当初両国はオランダに対抗するため良好な関係

- ・イギリス=オランダ戦争でイギリス勝利
 - ・名誉革命→イギリス・オランダ協調
- } 英仏の
植民地争奪戦激化

- ②イギリスの覇権

- ・植民地争奪戦：北米・インド・・・ヨーロッパの戦争と連動
- ・北アメリカ：カ 戦争でイギリス決定的勝利
→フランスはアメリカ大陸の領土をほとんど失う
- ・インド：キ の戦いでイギリス勝利
→イギリスの決定的優位

- ②インドの ク が大流行→ 産業革命 の一因